

令和元年6月18日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04800

研究課題名(和文) 普遍性と多様性を考慮した漢文教材の開発

研究課題名(英文) Development of Classical Chinese Teaching Materials: Considering thier
Universality and Diversity

研究代表者

湯城 吉信 (YUKI, Yoshinobu)

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：90230614

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：漢字・漢文が持つ普遍性と多様性を意識した新しい漢文教育の教材を開発した。具体的には、これまで漢文教材として取り上げられてこなかった近代の詩や現代の文語調オペラを漢文教材として提唱した。

また、現代の漢文教育の参考とすべく江戸時代の漢文教育について調査報告した。具体的には、江戸時代の漢学塾・懐徳堂における漢作文と復文(書き下し文を漢文に直す練習)の様子を調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの漢文教育の教材は、古典に偏っていた。だが、実際の漢文は、時代・地域を越えた普遍性・多様性を持つ。本研究ではその一斑を明らかにし、今後の漢文教育に新たな可能性を提示できた。また、江戸時代の漢文学習の一端を明らかにした。特に、その復文練習の方法、教材の選定は、現代の漢文教育と違いがあり、現代にも多めに参考になる。

研究成果の概要(英文)：The author developed new classical Chinese teaching materials. Universality and diversity are the two main characters of classical Chinese language which has been used beyond the eras and regions in the eastern Asia. But, so far, classical Chinese teaching materials in Japan have been limited to classical. Considering the situation mentioned above, the author developed new teaching materials using modern musical film "Liangshanbo and Zhuyingtai" and the poems which described modern Chinese society named "Huajicongshu". On the other hand, the author researched the methods and materials of classical Chinese teaching materials in the Edo period. Their difference between ours is that composition was emphasized in the Edo period.

研究分野：中国思想史、日本思想史、漢文教育

キーワード：漢文教育 復文 漢作文 懐徳堂 並河寒泉 並河蜚街 滑稽叢話 梁山伯と祝英台

1. 研究開始当初の背景

漢文の特徴は、時代・地域を越えた普遍性にある。だが、現在の漢文教育の教材は、特定の時代・地域に偏っている。そのため、生徒たちに漢文の普遍性を感じさせることができず、漢文は単に過去のものという印象を与えてしまっている。このような状態では、漢文教育は廃れてしまうであろう。筆者は以上のような危機感に基づき、新しい漢文教材の開発の必要性を主張する。

2. 研究の目的

漢文の普遍性を実感できる教材を開発し、漢文教育の普遍化を目指す。

漢文の特徴は、時代や地域を越えて使用されてきた普遍性にある。それは、時代、地域を越えた漢文を目にすることで実感することができる。また、そのことにより、漢文が単に過去のものではなく、現代にも生き続ける文化であることを確認することができる。

本研究では、以上のような漢文の普遍性を実感できる教材を開発することを目的とする。時代、地域を越えた普遍性を有するということは逆に、時代や地域にわたって様々な多様性を有していたということも意味する。本研究のテーマに「普遍性」と「多様性」の両方をキーワードとして挙げる理由はここにある。

3. 研究の方法

これまで取り上げられたことのない時代、地域から漢文教材として適するものを見つけ出し、それに訓読を施し、漢文教材として使用できる状態にする。

具体的には、近代中国、現代中国の資料から漢文教材にできるものを発掘する。

また、江戸時代の漢文教育の実際の様子を調査し、現代の漢文教育の参考になる点を探す。

さらに、合わせて、新しい教材の収集を行う。現代の日本および中国で使われている熟語や成語などを漢文の導入教材として収集するほか、入門教材にふさわしい文章（短くてストーリーのはっきりした文章）を中国および日本の文章から収集する。

4. 研究成果

一つは、これまで取り上げられたことのない教材を発掘した。具体的には、近代の中国の詩文を取り上げた。また、現代の中国の伝統映画にも漢文の要素が残っていることを紹介した。

もう一つは、江戸時代の漢文教育を調査し、現代の漢文教育にも参考になる点を見つけた。具体的には、懐徳堂の漢文教育の様子を紹介した。彼らは独自の教材を使い、復文（書き下し文を漢文に直す練習）や和文の軍記などを漢文に直す漢作文の練習をしていた。実用的で実践的なその漢文学習の方法は現代の我々にも参考になるであろう。

また、研究期間中には発表できなかったが、上記の研究に基づき、新しい漢文教材を編集した。今後機会を見つけて公表する予定である。

成果の詳細は以下のようなものである。

論文「『滑稽叢話』を漢文教材にする」(原題「『滑稽叢話』に見る辛亥革命前後の中国」)

では、1911年に上海で出版された『滑稽叢話』を漢文教材として提案した。同書には、辛亥革命前後の中国の様子が如実に描かれているが、白話運動が始まる前の資料であるため文語で書かれている。内容、文体ともに漢文教材として適している。

論文「映画『梁山伯与祝英台』を漢文教材にする」では、新しい漢文教材の例の一つとして、黄梅調映画『梁山伯与祝英台』を取り上げた。1963年に国泰により製作された黄梅調映画『梁山伯与祝英台』は、中国四大民間伝説の一つである「梁山伯と祝英台」を映像化したものである。その歌はわかりやすい文語調になっているため、漢文教材に適している。

論文「懐徳堂における漢作文実習」では、並河寒泉『文通』に見える漢作文に対する考えを確認した上で、和文の史談を漢文に直す練習がされていた様子を具体例を挙げて紹介した。

論文「懐徳堂末期の漢文教育 並河寒泉『課蒙復文原文』、並河蛭街『復文草稿』を中心に」では、並河寒泉『課蒙復文原文』、並河蛭街(たんがい)『復文草稿』(共に大阪大学懐徳堂文庫蔵)を中心に、懐徳堂終末期における復文練習および漢作文練習の様子を紹介した。復文については、教材は類書の『淵鑑類函』から多く取られていること、その内容

には懐徳堂および寒泉の特徴が見られること、原文の完全な復原を目指すものではなかった点を明らかにした。漢作文については、教材は、すでに指摘されていた『常山紀談』などの軍記以外に、『窓のすさみ(追加)』などの随筆や懐徳堂の逸話なども使われていたことを明らかにした。

また、以上の成果を科研費報告書『普遍性と多様性を考慮した漢文教材の開発』(2019年3月)にまとめて発表した。本報告書では既発表の論考に加え、並河寒泉『課蒙復文原文』、並河蚤街『復文草稿』の本文およびその出典の一覧を掲載した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

湯城吉信、映画『梁山伯与祝英台』を漢文教材にする、大東文化大学紀要(人文科学) 査読無、57号、2019、254(65)-234(85)

湯城吉信、懐徳堂末期の漢文教育 並河寒泉『課蒙復文原文』、並河蚤街『復文草稿』を中心に、大東史学、1号、2019、71-96

湯城吉信、懐徳堂における漢作文実習、中国研究集刊(大阪大学中国学会) 64号、2018、68-86

湯城吉信、『滑稽叢話』に見る辛亥革命前後の中国、懐徳、85号、2017、60-71

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。